

卓 話 ●中村孝秀会員

「ロータリー雑感 ～四半世紀を迎えて～」

久しぶりに、個人卓話の担当となり、何を話そうかと考えました。松本会員が以前、ご自身の卓話の冒頭で、「入会してすぐ、地域の重鎮が多数在籍されている中で、その方々を前に、30分話をする機会があると知った時、ワクワク・ドキドキ感で胸が高鳴りました」と話されていたことを思い出し、私自身ロータリーに入会して26年目に入るので、ロータリーについての今までの歩みと、感じたことを話してみようと思います。



私は1998年10月に、龍野ロータリークラブに入会させていただきました。会長は浅井昌信先輩、幹事は伊藤哲郎先輩だったと思います。

JCの一つ先輩の寄川元会員が、「君をロータリーに入会するようにしたから、そして推薦人は同じ太子町在住の嵯峨山先輩にお願いしたから」と言われました。当時、嵯峨山先輩は、こちらが一方的にお名前を存じているだけで、面識もなくビックリした事を覚えています。程なく、嵯峨山先輩が事務所を覗かれて「私が推薦人になるから入会してください」と言われ、迷う間もなく入会させていただきました。

JCを卒業して、漠然と日々を送っており業界だけの付き合いでは、視野が狭いなと思っていたので、エリアが広く、様々な方面で活躍されている方々がいらっしゃる龍野ロータリークラブに入会させていただこうと決心しました。以来四半世紀が過ぎ、今年26年目の在籍となっています。

入会年がクラブの創立40周年の節目に当たり、4月に赤とんぼホールで式典、そして西はりま青少年会館で祝賀会が開催されました。

入会時の例会場所は、今の三井住友銀行の2階だったので、いつも銀行に行くという感覚がありました。入会時の会員数は64名で、その後80名近くになりました。多方面に活躍されている職業人ばかりで、毎回皆様の卓話を興味深く聞かせていただきました。

私の入会時には3名のチャーターメンバーがいらっしゃいました。浅井博会員、浅井彌七郎会員、壺阪壽会員です。入会から1年近くは、毎月その方々の席の隣に交互に座らせていただき、大先輩の隣で緊張して食事がのどを通らなかった記憶があります。

以来、財団委員長以外の委員長は、経験しました。

入会7年目にクラブ会報委員長をした時には、無理を言って、当時B5版であった週報を現在のA4版に変えていただきました。

また入会10年目、当クラブ創立50周年には、記念誌委員会の副委員長を、喜多村会員と共に務めました。

久保委員長の指導のもと、一つの形になった記念誌を作成することができたことも感慨深いです。当時私は、この記念誌のあとがきに次のように書いていました。「平成19年8月から足かけ2年、長いような短いような道のりでした。久保委員長の情熱という灯台の光を道しるべに、難破することなく、なんとか港にたどり着けました。今振り返ると楽しい航海でした。数

十年先に私自身どんな気持ちでこの記念誌を、読み返すのか楽しみです…」

あれから 17 年の時が経ち、今どんな気持ちでこの記念誌を読み返しているか、自問自答してみると、当時のロータリーに対する情熱・志はどこに行ったのかを考えさせられる機会となっています。

2010～2011 年度には、松本会長のもと、幹事をさせていただき、ロータリーの運営面を含めて内面から勉強する機会となりました。幹事としての力不足と会員の皆様の優しさを肌で感じた一年でした。

また入会 22 年目の、2020 年～2021 年度には、クラブ会長をさせていただきました。コロナ禍の 2 年目で、通常の半分しか例会ができなく、予定していた事業の半分も実行できなく、歯がゆさを感じた 1 年でもありました。その中で、Zoom によるハイブリッド例会ができたことは、唯一の成果だったように思います。

その翌年から、私の会長時のガバナーである高瀬英夫様からのお声掛けにより、地区の戦略計画委員会の委員を委嘱いただいて、現在 2 年目に入っています。

毎月開催の、神戸での委員会とその後の懇親会は大変ですが、いろいろな方々と知り合うことができます。地区役職も自分から楽しもうとすれば、多くを得ることができ自己研鑽につながるので、特に若い会員は、機会があればぜひ地区にも出ていただきたいと思います。

私のロータリー歴はまだ四半世紀ですが、次年度は西播第 2 グループ・ガバナー補佐という大役を拝命し、私には果たして務まるかどうか自信がありません。

しかし、私自身、今一度ロータリークラブに対する情熱を取り戻すべく、失敗を恐れず楽しんで取り組みたいと思います。

今後とも、会員の皆様のご理解・ご協力よろしくお願い致します。